

2012 年度第6回

「札幌イトウシンポジウム」



「イトウ釣りの未来を考える」

と き 平成 24 年 6 月 30 日（土） 13:30 開始

ところ 北海道自治労会館（札幌市北区北 6 条 7 丁目 5-3）

主催  猿払イトウ保全協議会



猿払イトウ保全協議会

2012年度第6回札幌イトウシンポジウム開催要領

1. 目的 「幻の魚 イトウ」と呼ばれて長い年月がたつ・・・・・・。
- 北海道の各地でイトウの保護活動が行われているなか、当協議会も環境保全林を設定してイトウ保全に取り組んでいます。
- 釣りの対象魚として、多くの釣り人がイトウ釣りを楽しんでいます。が、イトウの保護については、釣り人のモラルに頼っているところが大きく、ここで「絶滅危惧種イトウ」の釣りとの両立について、改めて考えてみようと、この度のシンポジウムを企画しました。
- 猿払村まで足を運ぶことのできない方々に、少しでもイトウのことや当協議会のことを知っていただければ幸いです。

2. 開催場所 北海道自治労会館（札幌市北区北6条7丁目5-3）

3. 開催日時 平成24年6月30日（土曜日）13：30～

4. 日程

時間	内容	備考
13:00～ 13:30～	受付（開場） 開会挨拶	協議会会長 小山内 浩一
13:35～	講演1） 『猿払イトウ保全協議会について』	協議会会長 小山内 浩一
13:45～	講演2） 『猿払川下流域でのイトウ釣りについて』	北海道立総合研究機構水産研究本部 さけます・内水面水産試験場 内水面 資源部 川村 洋司 氏
14:30～	講演3） 『北海道のイトウ釣り』	フライフィッシングガイド 千葉 貴彦 氏
14:45～	パネルディスカッション 『イトウ釣りの未来を考える』	コーディネーター 猿払イトウ保全協議会 小野 理 パネリスト 川村 洋司 氏 千葉 貴彦 氏 小山内 浩一
15:30	閉会あいさつ	協議会副会長 三浦 高志 (猿払村副村長)

5. 共催 猿払イトウの会（会長 小山内 浩一）

講演1 『猿払イトウ保全協議会について』

講師；小山内 浩 一 猿払イトウ保全協議会会長
猿払イトウの会会長

挨拶およびイトウ保全協議会活動内容について、パワーポイントを使用し説明

立ち上げまでの経緯
イトウ保全協議会の内容
今までの活動内容
これからの活動計画について
(11 分間)

講演2 『猿払川下流域でのイトウ釣りについて』

講師；川村 洋司 氏 北海道立総合研究機構水産研究本部 さけます・
内水面水産試験場 内水面資源部

平成21年・22年に行った猿払川下流域での釣獲調査のデータを基にしたの
これからの猿払川でのイトウ釣りについての講演

キャッチアンドリリースはイトウ保全のために非常に重要
シングルフックとトリプルフックでの釣り数の差はほとんどない
バーブレスとバーブありでの釣り数は若干バーブレスのほうが釣れるようだ
ルアーの場合はシングル、トリプル、バーブあり、無しの差はほとんどない
フライの場合はシングル(トリプルはない)、バーブレスのほうが釣れるようだ
釣り人のイトウに関するモニタリングが重要である(釣れたイトウの報告)
釣り人、イトウ保全協議会、自治体等による共同でのイトウの資源管理が重要
イトウ釣りの未来は考えるものではなくて創るものである。

質問者 3名
(57 分間)

講演3 『北海道のイトウ釣り』

講師；千葉 貴彦 氏 フライフィッシングガイド

イトウ釣りのルールづくりについて

イトウの釣り人にイトウに対する温度差が生じている
イトウを本当に愛する釣り人が猿払から遠ざかってしまう。
曖昧なモラルやルールはいらない
理念条例でも仕方ないが法的な条例が必要
水中でのキャッチアンドリリースが必要
猿払川でのルールは猿払のイトウの会、自治体で決めるべき
(ルールに不平不満がある釣り人は、猿払に行かないという選択肢がある)
猿払川のイトウは海外からも注目されるフィッシングフィールドである
(15 分間)

休憩 (10 分間)

パネルディスカッション

コーディネーター 小野 理

パネリスト 川村洋司氏・千葉貴彦氏・小山内浩一

小野 はじめにパネラーの方より、他の方の講演を聞いて、また今までの会場の質問、意見等を踏まえて発言をいただきたい。

川村 北海道の釣りの中でも貴重な釣り場である。フィールドとしても素晴らしい対象魚も大きい、とにかくすごいとしか言えない。ただどのようにルール作りを進めていくかをこのような場を多く設けて作り上げていくことが早急に必要。

千葉 とにかく魚を殺さないこと、リリースミスをより少なくする。釣りの時間帯を早急に定める、(他のルールにしても先進諸外国のように) スポーツフィッシングである以上ルールはあるべき。

小山内 川村さん、千葉さんのお話はとても参考になった、猿払としてもそろそろルールの制定をしなければならない時期だと認識している。このような場も久々なので、本日ここにお集まりの皆様の率直な意見をお聞きし、参考にしたい。ルールの制定にも皆様の力をお借りしたい。

会場A ルール作りについては多くの人たちに同意を得るとか、できることから

- 始めるとかではなくて、イトウの会として猿払が決めていいと考える。
- 千葉 猿払をひとつの例としてルールを守れる人たちが来るべきフィールドにしたほうがよい
- 会場B 最初はお願い条例的なものでもいいのではないかと、ルールは守っていただきたいが、それを守れるよう促すことも大事ではないか。
- 千葉 ルールは厳格にルールとすべきである、願望的なものは猿払で5年10年たっても状況の改善は難しい。1回猿払で条例制定すべきである。
みんなイトウを愛しているはずであればルールは認められる。
- 会場C 私はあまり猿払川下流域では釣りはしないが、ひどい人というか、目に余ることというのはどんなことか？
- 千葉 夜釣り禁止のお願い看板があるが、夜釣りの方が増えている感じがする。
- 会場C 看板の内容はどのようなものか？
- 小山内 釣り自粛期間と自粛場所、あと夜釣りの自粛です。
- 千葉 自粛という逃げ道がある、その自粛看板を守る人間と守らない人間との間の温度差が非常に高い、守る人間が非常に辛い。線引きが難しい
たくさんのクレームは来ると思うがきっちりとした条例制定が必要だ
- 会場C このたび尻別川ではイトウ見学7か条を作った、猿払でもイトウ釣り7か条みたいなものを作ってはどうか？
- 千葉 どちらともとれるような条例やルールは守らないものが得するような感じがある。やはりきっちりしたものが重要である。イトウが健全に生息している今だからこそ条例が必要、この先イトウが減少し始めてからでは遅い。
- 小野 ルール、条例制定の話で盛り上がっていますが、その他の意見もどうでしょう？
- 小山内 5年前にお願いの看板を設置しましたが、今、話されてるような問題が出ています、イトウに関する条例を今猿払で制定するときは内水面も漁業権もないので理念条例でしかない。
- 会場D この頃猿払川下流域では本当に夜釣りが多くなっている。キープする方が多いのではないかと想像する。夜釣りの時間設定は時間ではなくて、日の入りから何分とかのほうがいいのでは。もっともっと厳しいルールでいいと思う。
- 会場E 私たちも日の出から日没までとしているが、やはり夜釣りを禁止するためのルールである。
- 小山内 誰か夜釣りは推奨すべきだという意見はありませんか？
- 川村 夜釣りが多く釣れるということはないと考えるが、ルアーとフライの差があるのかなと思える、ルアーマンのやる場所がないのでは？
- 会場B 昼間でもルアーマンの釣りする場所はたくさんあるし。猿払川下流域ではルアーマンのほうが圧倒的に有利と思える
- 千葉 釣り人同士がうまくやれば隣同士でルアーとフライ釣りができる。
- 川村 夜釣りの問題というのは科学的な問題ではなくて、人間的な問題である。

千葉 夜釣りで多くイトウが釣れるから夜釣りではなくて、あくまでスポーツの一つと考えてルールは絶対必要。この頃昼間大きいイトウが釣れなくなっている、夜釣りとの関連を調べられるなら調べてほしい。

会場B イトウの会が釣シーズン、釣り人に協力をお願いして、イトウの釣果についてアンケートなり、調査をお願いしてはどうか、その他の経済効果についても調査してはどうか？

小野 時間が来てしまいましたが、まだ発言等していない方からご意見ないでしょうか？

SICメンバー トイレについてはどこで用を足してますか？

千葉 小用は現場で大きいほうはシェルターか猿払のバス停です。

SICメンバー ゴミ拾いの時に橋の下でよく大きいほうの用を足している痕跡を発見し処理している。

小山内 5年前、仮設トイレを設置することもイトウの会で考えたが、管理の問題、費用の問題で断念した経緯がある。

小野 様々な意見、質問等も出ましたが最後にパネラーの方々から一言ずつお願いします。

川村 人間が多く集まるところには、いろいろな問題が発生する、ルールづくりにも言えることだが、科学的なことより人間的なところで対話を多くして対処してほしい。

千葉 ここにいるような釣り人の方たちがもっともっと猿払が増えてくれば猿払の将来は明るくなると期待する、小さいことからでもいいがそれに上乘せして条例ができてくれたら最高である。

小山内 今回の皆さんの意見は非常に参考になりました、このような会を秋にも猿払で開催したい。今回、発言することができなかった方もメール等で意見をいただきたい。条例制定に向けて様々な活動を行っていく。

小野 本日はありがとうございました。